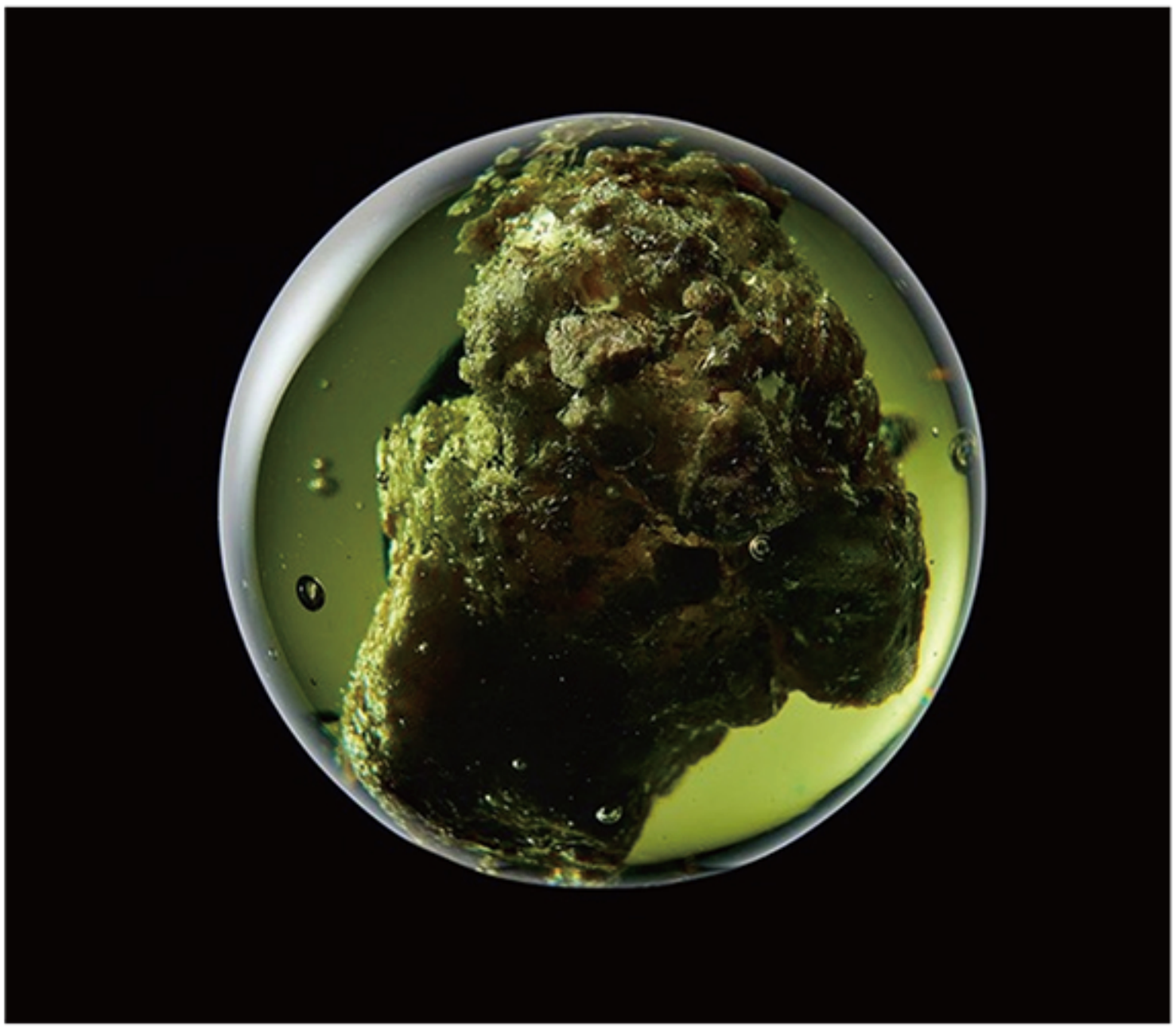
SUWAガラスの里美術館 特別展

まろかれ土壌



Sahara: Geological Glass

2023.
7.20
START

村山耕二
KAIBA GLASS WORKS

SUWAガラスの里美術館

■営業時間　4月～9月／10:00～18:00　10月～3月／10:00～17:00　■美術館入館料　一般／600円、団体／500円、中学生以下／無料
■休館日　4月～12月(火・水曜日)　1月～3月(火・水・木曜日)　祝日は除く　※ゴールデンウイーク、8月は全日営業
■住所　〒392-0016　長野県諏訪市豊田2400-7　■電話番号　0266-57-2000

KOJI MURAYAMA

足元にある「砂」は普段気にすることのないものである。
しかし、その砂は地球が宇宙の歴史の中で、
無数の核融合で作られた元素によるものだ。
作家は観察、実験を繰り返し、新たにガラスを制作する。
そのガラスは様々な土地の記憶が融解され作られたもので、
宇宙、地球の誕生や変化を因果に様々な色彩、現象を生み出す。

村山耕二

EARTH GLASS「大地を融かして」

大地を融合する・EARTH GLASS。これは各地域の地質特性を生かし、その土壌をガラス化し表現してゆく活動である。地域的特性やコンセプト・地質等から適合する箇所を選び、その地の土壌を最大限使用することで約 70-80% を原料とするガラスを生成できる。
それぞれの砂に含まれる地質特性は、土壌のガラス化に色彩を与え、大地の歴史を内包した固有の表現を生み出す。これは、その地を示す新たな指標を持つ素材であり、地域の文化をリサーチする事と併せた表現の可能性を予感させる。

Geological Glass

Geological Glass は、砂よりも大きな粒子である岩石を扱った作品である。地球の活動において、地表のプレートが地下へと沈み込みマグマに触れ溶け込んでいく、この地下で行なわれている熱による「崩壊の変成」がコンセプトになっている。
岩石は 1250-1300 度の熱に触れさせることでガスを出しながら崩壊する。岩石が変容していく様子は一方で、土地の記憶から、地球の成り立ちや深遠な宇宙の創生を想起させる。
岩石が放出したガスは、ガラスに封入することで可視化され、岩石の中にある全てのマテリアルが消えることなく、その場で崩壊された様子がわかる。

Volcano Glass

Volcano Glass は、砂 (＝EARTH GLASS)・岩石 (＝Geological Glass) を経て地表の噴出するマグマを表現した作品。ガラス素材の制作において、金属は不純物として取り除かなければならない物質であるが、再度、高熱で双方を融合させ、表面に皮膜を形成させる事で、内部と表層の異なる物質を制作する。表層が金属であるため、時間による変化が少ないガラスに酸化崩壊を伴う時間にまつわる表現が可能になった。

KAZUTO IMURA

自身の内面は自身のみが知り、自身の外見は他者にしか見えない。鏡像や写真は外見の再現 (re-presentation) の像であり、それ自体ではない。つまり内面、外見の双方向から知る存在がいないことに興味を持ち、「自身を内包させた鏡を他者に見せること」をテーマに制作を行う。それは光学機器や映らない鏡、魔鏡、黒曜石、回転液体鏡など、素材や技法を横断し、現代の科学から神話や祭祀など考古学的観点まで遡り、人と鏡の関係性の変遷を追う。

井村一登

mirror in the rough

鏡面の歪みが鏡像を歪ませる。
溶解炉の中に溶けているガラスの火を落とし、坩堝を急激に冷却させることで、人工物と自然物の境界のような歪な塊を生む。ガラス板から製作する一般的な鏡の製造方法と同じ工程でガラス塊を鏡にすることで、創出される鏡の塊。表面鏡と裏面鏡の構造の境界線を無くした曖昧な存在のそれは鏡像を歪ませる。
作品タイトルは「鏡の原石」を意味する。
素材：ガラス、アルミ

loose reflection

トルコのチャタル・ヒュユクの遺跡から黒曜石の鏡が出土した。それは紀元前 6200 年頃に制作されたといわれ、最古の人工の鏡である。黒曜石は火山の噴火によってできた天然のガラスであり、それから約 8000 年後の今もガラスは鏡として使用されている。本作は、様々な土地の黒曜石を砕き、溶かし、混ぜ合わせ、人工的な塊を生成する。本来の黒を失い、透明度を持つこの塊に対して、作家は当時と同じように研磨によって鏡を制作する。これは、透過と反射だけではなく、太古の素材を使用しつつも、新たに生まれた素材であるという対も併せ持つハーフミラーである。
制作協力：岩宿博物館、海馬・地質ガラス研究所、株式会社 Makership、nico design、UNOU JUKU by AGC 株式会社